

研究レポート No. 915 岩手県農業研究センター

トウモロコシ子実と大豆屑を主とした国産100%飼料の南部かしわへの給与技術と産肉成績

南部かしわに、県内で生産されたトウモロコシ子実と大豆屑を主体とした国産100%飼料の給与すると、肉色に特徴のある本県オリジナルの地鶏肉を低コストで生産することができます。

【1 成果の概要】

- (1) トウモロコシ子実は、粗蛋白質が8.3%、粗脂肪3.6%であり、市販配合飼料に比べ粗蛋白質等が低いため、それを補うため大豆屑を29.5%添加とて粗蛋白質含量が同等で低コストな国産100%の飼料が調製できます(表1)。
- (2) 南部かしわに、28日齢以降、国産100%飼料を飽食給与すると、概ね17週齢で出荷目標体重(2.8kg)に到達します(表2)。
- (3) 腿肉と脂肪の色は、黄色度が有意に高く、腿肉の明度が有意に明るくなります(表4)。産肉性で、正肉量が少ないものの正肉歩留が高く、筋胃重量が重くなり、飼料費は、正肉1kg当たり164円/kgの削減が見込まれます(表5)。

表1 試験区及び給与飼料の概要

区分	配合割合	(%, 円/kg)	
		原物中粗蛋白質	価格
試験区	国産トウモロコシ子実(64)、国産大豆屑(29.5)、添加飼料(6.5)	18.4	59
対照区	配合飼料(100)	17.2	81

※1kg当たり、トウモロコシ子実35円、大豆屑41円、添加飼料378円、配合飼料81円、として算出

表2 発育成績

区分	性別	羽数	(g/羽)					
			4週齢	8週齢	12週齢	14週齢	15週齢	17週齢
試験区	雌	10	540±28	1,361±92 ^a	2,079±130 ^a	2,378±146 ^a	2,542±146 ^a	2,786±146 ^a
対照区	雌	10	547±38	1,544±83 ^b	2,328±103 ^b	2,668±122 ^b	2,865±140 ^b	3,146±204 ^b

※異符号間に有意差あり(P<0.05)

表3 1羽当たり週齢ごとの飼料摂取量及び飼料費

区分	(g, 円)											
	4~8	~9	~10	~11	~12	~13	~14	~15	~16	~17	摂取量計	飼料費
試験区	2,250	530	700	660	680	820	700	960	920	770	8,990	530
対照区	2,220	650	800	710	760	890	860	980	930	750	9,550	774

表4 肉色及び脂肪色

区分	腿肉			胸肉			脂肪		
	L*	a*	b*	L*	a*	b*	L*	a*	b*
試験区	43±3 ^a	15±2	8±1 ^a	48±4	2±1	8±2	68±6	-3±1	28±6 ^a
対照区	41±2 ^b	15±1	6±1 ^b	48±3	2±1	6±2	64±3	-3±1	15±4 ^b

※L* : 明度、a* : 赤色度、b* : 黄色度、異符号間に有意差あり(P<0.05)

表5 1羽当たり産肉性及び経済性

区分	胸肉	腿肉	ささみ	正肉量	正肉歩留	正肉1kg 当たり必要 飼料費	(g, %, 円)	
							(備考) 筋胃 重量	内容量
試験区	415±33	520±47 ^a	119±10 ^a	1,053±67 ^a	40±2 ^a	503	53±7 ^a	6±2 ^a
対照区	426±26	605±43 ^b	130±9 ^b	1,161±56 ^b	38±2 ^b	667	44±5 ^b	4±2 ^b

※異符号間に有意差あり(P<0.05)

【2 留意事項】

- (1) 今回使用した「トウモロコシ子実」は、水分が低いことから、飼槽に対し霧吹きで加水し、表面のみを湿らせると食いつきが良くなります。微細な粉末が生じるため、育成初期段階では、採食しにくいので、底がV字型である飼料箱を用いることが望ましいです。
- (2) 大豆屑は、加熱処理をしてください。
- (3) 添加飼料の9割は国産米ヌカであり、残りはアミノ酸、ビタミン及びミネラル等です。

担当研究室 畜産研究所家畜育種研究室

〒020-0605 滝沢市砂込 737-1 TEL. 019-688-4328 FAX. 019-688-4327